

服薬支援機器導入事例報告及び 福祉避難所でのボランティア経験報告



若林あんしんすこやかセンター
(世田谷区若林地域包括支援センター)
看護師 伊藤光世



事例1 服薬支援機器を導入した事例

・75歳・男性

疾患：H19年 小脳梗塞

H22年 上腸管膜動脈塞栓症・心房細動・高血圧症

内服：ワーファリン(飲みすぎのリスクがあるためプラビックスに変更)

ジゴキシン・クレストール・プロプレス・アダラート・タナトリル(意見書に記載)

介護度：要介護1、サービス利用なし

生活状況：一軒家に一人暮らし

・関わりの経過：

・H22年1月：兄が当事務所に来所、本人は上腸管膜動脈塞栓症で入院中

兄は過去の事情および兄自身の体調不良があり、関わる事ができないとの理由で、介護保険申請

・H22年2月：K病院の相談員より連絡あり。本人が受診日以外の日を受診したり、担当科も間違ってしまう。家族かCMが同行しての受診の依頼あり

・H22年3月：受診同行。主治医と相談、地域のかかりつけ医での診察に変更となる

服薬支援機器の導入前

- 30日分の薬が処方されても、袋に入ったまま9割がた残っていた
- 古い薬と新しい薬が混ぜこぜになっていた
- 日付が分からず、近隣のかかりつけ医に受診できなかった
- 預貯金のカードの暗証番号が分からず、カードでの出し入れができなくなった
- 書類・財布・お金の仕舞い忘れがあった
- 携帯電話の操作ができないので、電話連絡がとれない
- 近くのスーパーに買物に行き惣菜を買い、ご飯は自分で炊いていた
- 浅漬け・梅干を自分で作っていた
- カビの生えた餅や期限切れの惣菜を食べていた
- 入浴は週2回、近所の銭湯に行く
- 介護保険サービス利用を勧めたが、「自分はできている、何もいらぬ」と了解を得られなかった

服薬支援機器の導入まで

- ・ 朝9時に本人宅を訪問、あんしんすこやかセンター職員が「今日 は受診の日ですよ」と伝えると、一人で受診し、薬局に薬をもらいに行くことができた
- ・ 当日午後に訪問し、本人と一緒に薬袋に日付けを入れ、カレンダーに貼った
- ・ 9割がた内服できず、カレンダーに貼ったままになっていた
- ・ 国立障害リハビリテーション研究所の職員とあんしんすこやかセンター職員で機器の説明に訪問したが、「自分ではできるからいらぬ」と言い、了解得をられなかった
- ・ 服薬支援機器をあんしんすこやかセンターで預かった
- ・ 同行受診し主治医に協力を得て、機器の利用を勧めてもらった
- ・ ピピと鳴ったら逆さにして薬を飲む服薬練習を、5回してもらった

服薬支援機器の導入後

- 服薬支援機器使用期間：H22年7月～現在
 - 当初3週間の内2日分の飲み残しがあった
時間設定を10時にしていたため、服薬前に外出してしまったと考え、時間設定を9時30分に変更した
 - 服薬支援機器の窓に1錠残っていた日が2日/月あったが、毎日の服薬行動が確認された
 - 以前からの自分らしい生活は、変化なく継続できている

服薬支援機器 効果

- 確実な服薬ができた
- 自分でできてる満足感がある為、服薬に関する説明や契約の受け入れができた
- 介護保険サービスが入ることで、定期的に日常の見守りができる



自立支援機器を導入して見えたこと

◇ 認知症高齢者にとって

高齢者は、今までできていたことができなくなり、戸惑いや不安感が大きくなる。また手伝ってもらえることで迷惑をかけて申し訳ないとの気持ちや自信を喪失する

- ・ 主治医やあんしんすこやかセンター職員等関わった人から、「一人で薬が飲めてすごいですね」との感想が本人に伝えられ、出来ることがあるという自信になった。
- ・ 服薬支援機器は愛着のあるものとなり、「ベルが聞こえないと困るから」と、いつも過ごしているベット脇に置いている
- ・ 服薬はうれしい話題になり、服薬支援機器や介護サービスの説明や契約が受け入れやすくなった

自立支援機器を導入して見えたこと

◇ 援助者（家族・ケアマネージャー・地域包括支援センター）にとって

- ・ 確実に服薬できる安心感と、何時飲み忘れたのか服薬状況の確認ができる
- ・ 特に家族にとって身体的にも精神的にも介護負担の軽減となった
60歳代の夫を介護している妻より、「だんだんできないことが増えるばかりで追い詰められるような気持ちだった。自立支援機器の話を聞いて、夫が自分でできる事があるかもしれないと思うと、気持ちが元気になった。」
- ・ 認知症高齢者にとって自分でできるうれしい話題があることで、コミュニケーションがはかりやすくなり、見守りのためのサービス導入につながった

経済面での効果

- I. 飲み忘れや飲みすぎを防ぐ為、介護保険サービスを利用して服薬の見守りをした場合

要介護1の場合、生活援助(30分～60分未満)

229単位 × 単位数単価11.05円・・・2530円/回

1日1回服薬の場合、

2530円/日 × 30日 → 75900円/月

- II. 薬が処方されていても、確実な内服ができていないことにより、健康維持が困難になっていることは多くある
- III. 例え認知症高齢者でなくても、多くの種類の薬を日に何回も服薬することは難しい

**健康維持を支える確実な服薬支援は、
介護保険・医療保険に心強い味方**

今後に向けて

- I. 日常生活の中のさまざまな場面での、自立支援機器の開発
- II. 必要な人に届く情報提供
- III. 低価格で利用しやすい工夫や支援



福祉避難所での医療ボランティア 経験報告

- ・期間 : H23年5月27日～5月31日
- ・場所 : 宮城県女川町福祉避難所
 - 1階がサービス・地域包括支援センター(津波被害)
 - 2・3階が老人保健施設(被害なし)、2階が避難所
- ・支援内容:福祉避難所の運営サポート
 - 高齢者の通院介助・服薬管理等の健康管理
- ・避難している人:要支援レベル6名・
一般19名(要介護者と家族)
- ・派遣依頼:せたがや災害ボランティアセンター





どうやってここに 避難できたのですか？

- 耳が遠くてなんだか分からなかった。家の前の道路工事のお兄さんが、「おばあさんトラックに乗ってきな！」
- 避難所になっている近所の銀行に行こうと思った。歩行器でやっと歩いたけれど、あわてるとなかなか進まなかった。知らない人が車に乗せてくれて避難所に連れてきてくれた。銀行は3階まで全部津波にやられた。
- 商工会議所のバスに乗せてもらった。最後まで皆に声をかけてくれた町会の人・民生委員さんが津波にやられた。

皆さんの思いを
聴かせていただきました

「この麻痺の右手が助けてくれた！」

やっとここに避難したけれど、1階まで津波が来た。
いつも役に立たないと思っていたこの右手がしっかり
柱につかまってくれたから波に持っていかれなかった。
皆真っ黒い水を飲んで、しばらく真っ赤なおしっこだった。

皆に迷惑かからないようにと、毎日廊下を歩行訓練し
いた、春さん

皆にあられをご馳走してあげたい！

- 94歳の夏さん
- 家も仕事場も流され、息子は瓦礫のアルバイトに行っている
- 右に麻痺あるけど甘えないようにしないと。皆大変だから迷惑かけないようにしたい
- 窓辺におにぎりを崩したお米が干してありました
- 仮設住宅に入ったら、皆が大好きなお砂糖をまぶしたあられを作ってあげたい
- あらの向こうの瓦礫の景色、あそこに家があったんだ



高齢者の方々の大切な思い

- ・顔馴染みの人達と一緒に、女川町に住み続けたい
- ・皆～な大変、だから迷惑かけられない
- ・自分でできることは甘えないでやりたい

高齢者の思いを支える支援は？

- ・馴染みの皆さんと一緒に安心して住み続けられる環境
- ・高齢者自身の自立支援

ご静聴ありがとうございました。